

## 病む人に贈る

### 最後の宣言

あなたは、とうとう病の床にしまいました。

あなたが青い顔して、それでもまだ床にもつかないで、ブラブラしていたのは昨年  
の春でしたのに、今ではもうバツタリ横になって、歩くことも起きることも出来なく  
なりました。

田舎で医師の手にかかったあなたが、どうもはかばかしく癒えて行かないので、街  
の病院で診察を受けました。でもその頃は、あなたは「きっと、私の病気は治るのだ」  
と信じていました。

しかし病院での診察は、あなたの病気はかなり進行していて、なかなかの重患であ  
ることを告げました。

あなたはその時から「私の病気は治るのか知ら？」と疑いはじめました。死ぬるの  
じやないか知らと思うと、あなたはたまらない暗黒の中に沈みます。少し熱の下った  
日や、天気がよくて、気分が来きわであったり、食事が少おしい日には「私は治る  
のだ」とあなたは明るい気分になります。「死ぬるのじやないかしら」との疑いが、「私  
は治る」とおきかえられた時だけ、あなたは救われるのです。

しかし、秋から冬に時候が変わる時、たとえ、昨日より今日は暖かであっても、波状  
線を描きつつも、だんだん寒くなるように、終にあなたの病は重つてゆく一方でし  
た。

そうして「私の病は治る」という自信は、だんだんくづれて来ました。とうとう医  
師は最後の宣言をしました。

「まだ、今すぐとは申しませんが、この度が最後です。医薬の力ではどうにもなり  
ません。まあ栄養に気をつけておゆきなさい。」あなたは遂に、人間が最後に受け取  
らなければならぬ宣言を受け取ったのです。

### 絶望

それは鬱陶しい梅雨の夕暮です。庭には花一本見あたりません。八つ手の葉が雨  
に音を立てています。

毎日のように細りゆく体を見つめて、暗い心になります。雨の音すらが、いやな死  
の樂でしかありません。

「私は死ぬるのだ！」

二十八歳になったあなたが、こう考えた時、大きな鉄槌で打ちのめされたように、  
一切のものが打ち壊されてしまいます。そこにおいてある薬瓶の貼紙にすら「無価  
値」と書かれてあるような気がするそうです。もう医薬はあなたの力ではありませ  
ん。

地上は寂しい所です。生れたものは死し、出来たものは壊れるという宇宙の鉄則  
が動かない以上、百千の博士も、霊薬も、最後のものではありません。人類の生命を

人間の力で寸陰でものぼし得るのであろうか。否、博士も、祈禱師も、それ自身が滅んでゆくものである限り、我等の前には人間一切の手のとぎかない世界が待っています。医師の存在する理由も亦、人間が死ぬるものだからでもありませんが、死の前には一切の営みが絶対的価値を失ってしまいます。人間の仕事の一切は遂に相対的な解決しか与えてはくれません。

あなたの病床の隣部屋には、書棚に金文字の本が列んでいます。若いあなたに取っては、書物はあなたの生命でありました。だが今のあなたにとっては、それはもう用のないものであります。

人間はしよせん名誉の子であり、地位の子である。

人間は名利の子であり、欲望のかたまりである。

更に思想の子であり、主義の子である。

しかし、今のあなたにとつては、それらの希望が、光明が、歓楽が、そしてその他の一切の美しい殿堂が、一度に幻滅の悲哀の中に、くづおれてしまいます。

「死などについての不安は科学的無智から来る。」と主張したあなたであり、「生れたものが死に、咲いた花が散る、ということは当然なことだ。宇宙の物質的法則にすぎない。」と信じていたあなたです。

それは一つの正しい思想ではある。しかし、主義や思想が今のあなたを救つたでしょうか。あなたは一切の思想の構成が、主義の地位が、今のあなたにとつては、あなたのいる世界よりも遙かに遠いものであることがわかつて来ました。

あなたは今や、全く人なき灰色の荒野に独り立たされてしまいました。

## 死

あなたは、幾度も死に直面すまいとした。あなたのみならず、あなたの周囲の者すら、「シ」の音すら、文字すら見せまいとした。しかしそれは一時の安慰を偷もうとする姑息な虚偽でしかなかった。喀血する結核患者は、赤の色を見るのすら嫌うという、しかし死ぬるのが当然であるものは、大胆に死に直面したがいいではないか。

ああ。死こそは、諸行無常の自覚こそは、価値の一切を転倒する。

「世人薄俗にして共に不急のことを争う。」との釈尊のみ言葉も、ここから生れたのではありますまいか。

あなたは今、遂に人生を最深の暗において見出したのであります。それはただ一切からつき離された絶望である。一切のものがきが役立たない死である。しかも絶対に生を求めぬ。

## 永別

生れ出づる時、何ものを持って生れたか。

死ぬる時、何ものを持って死ぬるか。

あなたの今は、明かに死より外何物もない。あなたからは今、ポツポツと一切のものが離れてゆく。あなたは側につきそう奥様や、お母様を見つめて、近い内に別れね

ばならない寂しさを訴えて泣きました。如何に愛しあつた間であつても、永遠に別れねばなりません。死が我等にいたしましたことであるのは、愛し合うた者と永遠に別れねばならぬからでもあります。寂しそうなあなたを見て、お母様や奥様は、たまらない寂しさと悶えの中に落されましたが、どうなさることも出来ません。あゝ永遠の別れ。あなたは遂に浮ぶことの出来ない苦悶から救われようとあせり始めました。

## 宗教

あなたはしかし、ここまで行詰らない以前から宗教の世界に頭を入れていました。あなたが侮辱さえしていた宗教に。それは当然のことでもあります。

あなたは死の自覚と共に、いよいよ真剣に求めました。そして悶えつつも、苦しみつつも、あなたは懸命にあなた自身を救いあげようとあせりました。体が空いた時、食を求める心、青春期に異性を求める心、それは人間の全体をあげての本能であります。苦にみちた人生、滅亡に直面した者の心、一切の業苦から超えようとする願い、金剛不壊の信心に生きようとする欲求、しよせん、宗教的欲求は人類の本能的願求であらねばなりません。

宗教的信念を求めようとする態度は、厳肅なる人生を感じる心であります。我等は大乗經典に打ち向う時、尊嚴なる態度を人生に対してとらねばならぬことを感じないではいられません。

現代はまことに、エロ、グロ、ナンセンス、見るものも聞くものも遂にそれだけあります。そうした現代人が、動物的であり、本能的であり、感覺的であり、享樂的<sup>3</sup>であるのは無理はありません。しかし死を考える時、我等は厳肅に襟を正さないではいられません。誠に人生の一切の問題が、最後に至つて不可解になるのも、そして人生が深さをもつて来るのも、厳肅になるのも、複雑になるのも、それは「死」があるからでありました。この死を当面の問題とする時、宗教は最深の要求となつて表われて来ました。もちろん、死を当面の問題にしなくても宗教の問題はおこります。しかし死がなかつたならば、凡百の問題は人生から消えてゆきます。

あなたは今、必然の死を掲げてその解決を求めて来ました。

積尊も、龍樹も、曇鸞も、親鸞も全てがこの生死の問題の解決から出発しました。

## 大信海に

親鸞聖人は、御本典の信巻に於て「大信心とは則ち是れ長生不死之神方」と断言せられました。ああ、長生不死！ 何という權威をもつた言葉でありましょう。そして、阿弥陀仏のまたのみ名、無量寿如来、それが如何に力強く我等にひびきましよう。如来は無量寿であり、無量光である。その如来の生命の一切が全的に廻向せられることによつて我等の救われが成就する。如来の絶対のままに衆生の上に来現する力、それを大願業力と言ひ、本願力と言われます。親鸞聖人は、この本願力の前に一切のはからいを棄てて、全体を投托されました。

「本願力に乗托すること」それ自身が救われでありました。「信」とは衆生の一切のはからいが本願力の前に亡びつくされた相であります。我の全てを没しつくして、如来と一体に目覚める。凡情のありのままを、ありのままに如来に撰取される。

私が如来を信ずるのではなくて、信とは如来それ自身の相であり、如来心それ自身の全体でありました。したがって、亡びる私のあらゆるもがきが私を救うのではなくて、如来心をつかむのではなくて、如来心こそ、我の上に動き、信じ、発願し、廻向し、つかみはたらきかけるのであります。

あなたは遂にこの如来の願心にさめました。生きるも死ぬも、幸も不幸も、その一切をあげて、如来の大信心に直入しました。

病むあなたは病むままに病まぬ如来に抱かれ、善悪、智愚、淨穢を超えて、如来の大悲懷中に安住することが出来るようになりました。

### 安住

多くの求道者が最後に至って、行詰ることは、自分の片手では神をつかみ、その片手では現実に生きようとします。しかし絶対他方の世界では、右手をはなし、左手をはなし、右足、左足、その他一切をはなして、その全体を現実の中に打ち込みます。両手のすべてを現実に打ち込んで安住することが出来るのは、仏こそ、私の上に動き、我をつかみ、我に生きたもうからであります。祈ることによって神をひきよせることではない。懺悔をつづけて神の意を迎えるのではない。善悪の整理によって、仏をよびさますのではない。一度如来智慧光の前に、はからいの全てをとられた時、「廻4心ということただひとたびあるべし。」仏心と凡心とは完全に一体である。如来心の全ては、我等の現実に打ち込まれてあるのであります。病む者は安心して病むことが出来、泣く者は心配することなく泣くことが出来る。死にたくないものは死にたくないと呼びつつ死んで行っても、その中に安住があります。

あなたは今、安心して人間性を、あなたによつてつぶさに凝視しています。その出で来るままが如来の大信海にいます。出で来るままを、出で来るままに抱いて、愚を賢に、悪を善に装わなくてもいい世界に生れ出でられたのであります。

金剛不壊、それはかたくなることもなく、持ちものを力にするのでもなく、尊いつくし、はからいつくし、捨てつくした世界であります。

あなたの顔は晴れました。安らかな美しい微笑があなたの上に生れました。もうあなたは、死について悶えるあなたではありません。

あなたは、全く更生しました。死をその前途に見つめつつも、あなたは洋々たる広い世界に、死を惜しみ、生を味っています。

願わくば、一日でも長く大地の生を続けられて、人間最後の喜怒哀楽を味嘗し、あなたのなすべき全てをなすつくして安らかに往生せられますよう。最後の一呼吸までが、あなたの周囲の方々には尊い印象を残すでしょう。あなたは今こそ、あてにならぬとつきのけた、お母様、奥様と一如の世界に親しまれています。人間の最後の一呼吸までの一言一行すら、それが絶対の聖に通じていることを思う時、あなたは最後

ら。まで微笑し、合掌して大地の終焉をおつげになることが出来ると存じます。さよな